

# 東レ理科教育賞 豊田教諭

## 大谷中高 弦の振動実験装置開発

中学や高校の理科教育の進展に尽力した教諭らを表彰する「東レ理科教育賞」(東レ科学振興会主催)に、

大谷中学・高校(大阪市阿倍野区)の豊田将章教諭(61)が選ばれた。豊田教諭の受賞は、2019年度の文部科学大臣賞に続いて2度目。

高校の物理で学ぶ「弦の振動」について、テープ状に長いLEDストロボを光源とし、タブレット端末で振動や発光を制御すること

で細部まで観察できる実験装置を開発。「今後、広く普及することが期待される」と評価された。

豊田教諭は、子どもたちに理科に関心を持ってもらおうと「見える物理学」を目指しており、物理現象を観察できる装置の開発に長年取り組んできた。「暗記ではなく、自分で見て考える物理は本当に面白い」と話す。

その熱意は校内にとどまらず、家族向け科学イベント「サイエンス・フェスタ」(読売新聞社など主催)の実行委員長なども務めてきた。今年のフェスタは8月19、20日に同校で予定。豊田教諭は「多彩な出展を企画している。ワクワクする理科の楽しさを感じてほしい」としている。



開発した実験装置について説明する豊田教諭(大阪市阿倍野区で)